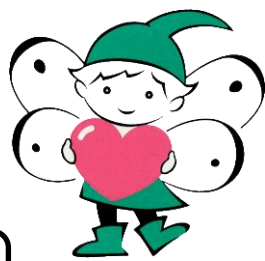


県民運動情報誌「ネットワーク」

「こころ豊かな美しい兵庫」をめざして

特集 「農」から広げるふるさとづくり

編集発行 ころ豊かな美しい兵庫推進会議（兵庫県企画県民部協働推進室内）
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 TEL 078-362-3136



愛称：ココロン

東播磨

ふれあい収穫祭で地域を活性化

十七丁自治会
会長 小村 徹（加古郡稲美町）

十七丁自治会は、約一〇〇戸の小集落ですが、農家も非農家も協力し、入場者二、五〇〇人規模の「ふれあい収穫祭・一万本大根祭り」を毎年開催しています。休耕田で一万本の大根や野菜を育て、収穫祭で一般参加者の引き抜き体験と販売を行っています。地域の子どもたちは播種、草引き、収穫、試食などを通じて、栽培の面白さ、収穫の喜び、新鮮野菜のおいしさを体験します。また、当日は地域の子どもたちの演劇や演奏の野外発表会の場ともなっています。



子どもたちの収穫体験の様子

〇問い合わせ先
十七丁自治会会長 小村
電話 090 (1076) 9968

中播磨

若手農業者たちでふるさとの魅力を発信

農家HANDS（ハンズ）
会長 飯塚 祐樹（姫路市）

中播磨地域では「手間ひま、手塩にかけた農産物を農家から消費者へ手渡していく、農業を通じたつながりを広げていきたい」との思いから、若手農業者が集まり、農家グループ「HANDS」を立ち上げました。農産物の直売会、試食も兼ねた野菜の講演会、酒米の田植え体験などを通じて中播磨の特産品や農業を広く知ってもらう活動に取り組んでいます。



JR姫路駅前「御結び市」に出店

〇問い合わせ先
農家HANDS 飯塚
電話 090 (3351) 6162
<http://www.himeji-hands.com/>

「中播磨の魅力」を農業を通して伝えていきたいと思っています。

但馬

「食」と「自然」と「アート」の祭典

三原谷の川の風まつり実行委員会
会長 小山 一（豊岡市）

二十五年以上も前に廃校となった小学校の校舎を活用し、八年前から「三原谷の川の風まつり」として、「食」と「自然」と「アート」の祭典を毎年十月に開催しています。地域で採れるお米、野菜などの販売、学校レストランとして地域の食材を使った三原谷ランチの提供を行うほか、教室アート、周辺の田んぼや農道を利便するの田んぼアートなどを公開しています。



地域の農産物を使った「三原谷ランチ」

〇問い合わせ先
三原谷の川の風まつり
実行委員会 田中
電話 090 (9617) 2311

淡路

温故知新で取り組む田んぼと農家の新しいかたち

フレッシュグループ淡路島
代表 森 靖一（淡路市）

私たちは淡路島内の若手農家数名が生産以外の機能を集約し、個々の強みを活かして栽培に集中するグループで、設備や知識を共有することで一人ではできない取り組みに挑戦しています。また農村の一員としての役割にお米作りを中心とした農村独自のスケジュールに沿った、ため池や水路などの保全管理の共同作業があります。採算がとれないと言われる水稲栽培ですが、体験事業やオーナー制度など現地での体験を通して付加価値と効率よい水田活用に先輩農家と挑戦しています。



大人も子どもも水田で楽しむ田植え体験

〇問い合わせ先
フレッシュグループ淡路島 森
0799 (70) 4232
<http://www.freshherb.jp>

ふるさとの田や山を守り続ける事で培われた知識や経験を次の担い手に継承していく為に、持続可能なお米作りを通して水田の保全や多岐にわたる農村の活動に取り組んでいきます。

今回は、農を通じてふるさとを守り、盛り上げる活動に尽力されているお二人が、知事と語り合いました。（平成二十八年二月四日対談）

【出演者】

株式会社小池農園こめハウス代表取締役・兵庫県青年農業士会会長 小池 潤（神戸市西区）
才田農園・ひょうごアグリビジネスの会長 黒田 美福（淡路市）
兵庫県知事 井戸 敏三

小池農園こめハウス

小池 私は、大学を卒業する時に、一般企業に内定が決まったと父親に伝えたと、父から突然「おまえは家に帰ってくる宿命だ」と言われ、自分もいつかはふるさとに帰ろうとは思っていましたが、戻って農業を継ぎました。
知事 それが何年前ですか。
小池 十七年前。四月で十八年目です。
知事 十八年もされているなら、もう中堅農業者ですね。
小池 そうですね。でも私は神戸市内では珍しく土地利用農家ですが、まだ十七回しかお米をつくっていませんので、まだまだ初心者です。
知事 随分謙虚ですね。神戸米の他に小麦や大豆もつくられているのですか。
小池 主食、食糧を生産するのが百姓だと父親がずっと言っておられて、米と麦と大豆を中心に、小豆やいろいろな豆類をつくっています。



小池 潤さん

才田農園

知事 黒田さんは、学校を卒業してからすぐに農業に従事したわけではないですよね。
黒田 違います。主婦だったので、子どもに新鮮なものを食べさせたい、そういう贅沢を与えたいと思い、自分たちでつくったものというのはなかなか食べられないのですが、自宅に耕作放棄地があったので、そこで野菜づくりを始めました。
種をまき育てていくうちに、水をやれば大きくなるし、水をやらなかったら枯れてしまつという、野菜の単純な素直さというものに惹かれ、自分の貸していた土地を返してもらおうようになり、また逆に耕作放棄地を借り受けてつくるようになりました。
知事 今はどのくらいつくられているのですか。
黒田 年間で作付面積は約二ヘクタール強です。
知事 何人でつくられているのですか。
黒田 私と父と、パートの二人で野菜と米をつくっています。
知事 野菜はどれくらいつくられているのですか。
黒田 約一・四ヘクタールが野菜です。



井戸知事

知事 淡路だから玉ねぎですか。
黒田 玉ねぎは少しです。主に秋、冬、春くらいまではレタス、夏はピーマンです。あとはブロッコリーもつくっています。玉ねぎは重いので、私もパートナーさんも女性だから、面積的には比較的少ないです。
知事 二ヘクタールを四人でつくれているのですか。
黒田 一人では無理ですけれども。
知事 華奢に見えますが。
黒田 荷物を持つコツなどがあるんです。



黒田 美福さん

農産物に対する想い

知事 小池さんの農園の農業規模はどれくらいですか。

小池 現在は年間で四十ヘクタール。水稲十二ヘクタール、小麦十二ヘクタール、大豆五ヘクタール、飼料米六ヘクタール、野菜一ヘクタール等をつくっています。

知事 耕種農家の典型ですね。

小池 その中で、生産から販売まで一貫して、スタッフ皆で、食べるに一番近いところまでやっていこうと、平成二十二年に神戸米という図柄で、同じ日に二種類商標登録させていただきました。一つは普段使いのもので、六甲山と海があって、その間で神戸米が生産されていることを表しています。もう一つはギフト用のものとして登録させていただきました。お歳暮やお中元等で地方へ神戸の農業を発信していきたいと思っています。



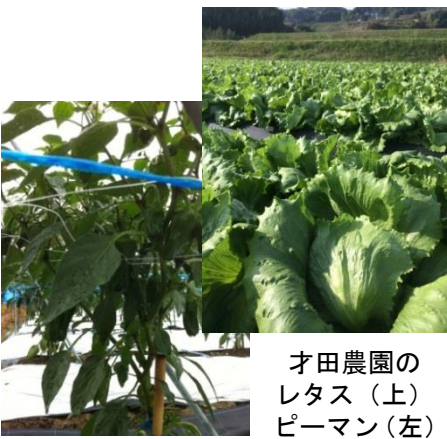
商標登録した神戸米

知事 小池農園は、何人でつくられているのですか。

小池 私を含めて五人でつくっています。将来は、一人ひとりが独立して、ピラミッド型経営ではなく、クラスター型の家族経営的な農業の形態で神戸米生産が行えるように頑張っています。**知事** 神戸米を商標登録してブランド米化するために、多くの消費者と生産

者とを結びつけるどのような工夫をされていますか。

小池 弊社はホームページはつくっていません。一対一で消費者とお話することによって、一度食べてみたいなど思っていたり、また、イベントの時も、実際にふれあいながらの「食育」を大切にしています。例えばコンビニエンスストアやファミリーレストランなどで二十四時間、三百六十五日食べられることが当たり前になりすぎている状況をどうにかしていきたい。食べられる状態で見るのではなくて、もっと前の普段の営農活動、生産の現場を見てもらう、実際の現場に来てもらうことをこれからの課題にしていって、消費者に体験してもらって、地元にはこんな農産物があるのか、今はこれが旬だなということを感じてもらいたい。そのようなふれあいを通じたお客さんづくりをしていきたいと思っています。**知事** 黒田さんは、野菜づくりで何かこだわっておられることはありますか。**黒田** 漢方資材を土に入れたり、上から散布したりして、減農薬の健康的な野菜づくりをしています。**知事** そうすると才田農園の売りは漢方入り野菜ですか。



才田農園のレタス(上)ピーマン(左)

週に一回でも利用してもらおうことによって、私たちがつくる農産物が売れることにつながると思っています。それが、安定した農業経営につながるのではないかと思っています。**知事** 地産地消とよく言いますが、地産食育ですね。

黒田 はい。食育はとても大事です。**知事** 今日はお二人から農業の第一線で活躍されているお話を伺いました。私は、兵庫は阪神間という大消費地を抱えているわけですから、その大消費地の消費者をめがけた農業を展開することによって、今後の兵庫農業は確立することができるはずだと思います。そしてその一つはやはり、大規模な米生産です。これは小池さんが目指されていますよね。

小池 はい。**知事** それからもう一つは、施設園芸を含めた野菜・果樹。野菜・果樹が今まで取り組まれていなかったんですね。それはなぜかという兼業農家が多すぎたんです。そういう意味でこれからの農業の担い手は専門家。プロフェッショナルになって、大都市近郊の地の利をぜひ活かして、米にしても、野菜にしても、果樹にしても、ブランド化をして、ここではないというものを売り込んで、消費者に理解していただくということが大切なのではないかと考えています。TPPに負けない兵庫農業づくりをしていきたいと思っています。お二人はその中核ですから、これからどうぞよろしく願っています。



大学で講義をする小池さんと黒田さん

管理栄養士は施設で必ずこれから必要な存在と聞いており、学生たちにお話しをさせていただくことで、農業をもっと身近に感じてもらう、将来食材を決めるときに、自分が仕事をしている地域にはこういう食材や特産物がある、これがこの季節の旬だなということを感じ出してもらう、毎日難しいと思いますが、イベントや月に一回とか

農を通じたつながり・発信

〇ひょうごアグリプリンセスの会

知事 アグリプリンセスの会はどういう意図でつくられたのでしょうか。

黒田 ピーマンの栽培について発表をした時に出会った方から、県内には他にも若い女性農業者がいるよということを聞き、私自身、自分は珍しい存在だと思っていたので、女性農業者で一度集まって話したいと思い、会うセッションをさせていただいたのがきっかけです。みなさんすごく元気です。**知事** アグリプリンセスは何人ですか。**黒田** アグリプリンセスは十人です。

Okobe Foo Style

小池 もっと農家を利用して欲しいと思い、昨年「Okobe Foo Style」という組織を立ち上げました。

知事 Kobe Foo Style party。**小池** Fooは神戸風(ふう)、あまご(は風(かぜ))のフー、Foodとフーの意味もあります。

都市近郊に農業があるという環境の中で私が農業を始めたものですが、神戸から農業の大切さというのを発信したいなと常々思っています。その一つが神戸米。その次に「Kobe Foo Style」で、もっと農家、私たちの日常を知ってほしい。例えば週末、ちょっと普段食べている農産物の生育状況などを見たいという時に、近くで農業をしている私たちがそれを担っていくことができればと思います。兵庫県、それから全国にそういうことを発信していく。食べることの大切さを伝えることの一つのはじめににならないかなと思っています。

農でふれあいを盛り上げる

小池さん

「Kobe Foo Style」

農家を山賊、漁師を海賊に見立て、昨年は神戸の都市近郊農家を巡る農家・山賊に会いに行くツアーを企画。二月には、須磨浦漁港でワカメの収穫等を体験する漁師・海賊に会いに行くツアーを開催。このようなツアーを今後も企画予定。

地域団体の紹介

阪神南

都市部での農業体験による食育活動

西宮市農業青年研究会
会長 宮本 雅広(西宮市)

私たちは、西宮市に住む二十〜四十歳の若手農業者九名で構成する団体です。

西宮市は都市化が進んで農地や農家が少ない地域であり、農業を知らない子どもが多いことから、地域の農業を知ってもらおうと、平成二十年頃から食育活動に取り組んでいます。

平成二十七年度は、市内の幼稚園、保育園、小学校など九団体(約千人)の児童に、さつまいも掘り体験してもらおうとともに、さつまいもが大きくなる様子や、食べ方、保存方法などについて分かりやすく説明しました。児童や保護者からは、体験を通して



さつまいも掘り体験の様子

さつまいも生産の様子や、生産における農家の苦労がよく分かった、地域の野菜をもっと食べたいなどと好評で、今後、この活動を続けていければと考えています。

〇問い合わせ先
西宮市産業環境局
産業環境総括室農政課
電話 0798 (35) 3392

知事 県でも、小学校三年生に環境学習に取り組んでもらっています。種をまいたら芽が出てきて、育て、それが実になって、自分たちの命を支えてくれているという命の大切さに感動してくれそうです。だから皆さんにもお手伝いさせていただいていますが、小学校三年生に環境学習という形で、現場で体験してもらっています。

黒田 黒田さんは、若い研修生はまだ入っていないのですか。
黒田 昔は研修生を入れていましたが、今は入っていないです。
知事 そうですか。我々も農業後継者をきちんと育てるために、研修生のよいうな人を募集して、農家の人に預かっていたらという事業を始めたかなと考えているところです。その際は黒田さんのところにも行きますからね。
黒田 ぜひ。よろしく願います。

これからの抱負

黒田 地元の淡路市仁井地区は中山間地域で、高齢化により耕作放棄地が増え、地域の景観が失われてくるという危機感がすごくあります。ですから、今までお世話になっていられる地域の方々に、これからは少しでも恩返しをしていきたいと思っています。

知事 リタイアされる方々の農地をどんどん預かっていくということですか。
黒田 はい。預かっていけるような大きな器になれたらなと思っています。
知事 きつとなれますよ。頑張ってください。小池さんのこれからの抱負をお聞かせください。

小池 まずは神戸市内の農業を守っていくことです。それから、私が会長を

黒田さん

「淡路アグリノート」

淡路の若手農業者のグループ。淡路野菜の認知度拡大・販路拡大のため、毎月第一日曜日にハーバーランドの「カルメニ」(キリンの像があるビル)でマルシェを開催中。